

洋上アルプス



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等はこちら
https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/

鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL 0997-42-0331

4月1日付けで九州森林管理局技術普及課より当保全センターへ赴任しました
奥村 克と申します。

「屋久島の皆様、ただいま!」。平成29年度から3年間、屋久島の皆様方のご
支援の基、業務に地域活動にと動き回った思い出が数えきれないほど残ってい
ます。

当時は、着任早々に「奥岳山岳地帯が、奥村の動く業務エリア」、また、
「洋上アルプスの発行責任者」と申し送りがありました。これまで関心・経験
がない業務で戸惑いながらも縄文杉モニタリングや大株歩道の路線関係、花之
江河等湿原保全対策などに取り組みました。また、広報誌「洋上アルプス」
は、連載記事等々をどう構成するかなど職員一体となって進め、令和2年3月
に300号の特別号を発行しました。

屋久島森林生態系保全センター

スギ挿し木コンテナ苗の育苗については、地域の関係者等と連携・協力しながら、九州育種場や九州大
学の支援をいただき取り組んだことを覚えています。現在も島内各社で育苗などの取組が進められてい
ることは、屋久島の森林の保全と整備、屋久島の将来のために自然遺産と共に循環利用可能な人工林地帯を
後世に残す取り組みが続けられているものと考えます。

私が思う屋久島の魅力は、気候、巨岩とヤクスギ及びヤクスギなど樹木の白骨化、そして、前岳の人工
林と調和した広葉樹林、ヤクスギやモミ・ツガなどを主体とした温帯性針葉樹林帯から遺産地域の自然
美、また、垂直分布に見られる生物多様性だと思えます。

屋久島の世界自然遺産地域登録は、昨年、30周年を迎えました。屋久島のクライテリア（登録遺産評価
基準）は、自然美と生態系であり、最上級の自然現象、又は類まれな自然美・美的価値を有する地域とし
て認められた地域であり、縄文杉をはじめとするヤクスギ天然林のほか、湿原や山岳、美しく迫力ある川
や滝など数多くの名所を楽しむことが出来る場所「屋久島」であります。

これから、屋久島のことをいろいろ勉強しながら、森林にも足
を運び現地状況等の把握、地域のニーズの把握など伝統と文化・
歴史を大事にするとともに関係機関等と連携・協力し、屋久島森
林生態系保全センターとして、出来ることをしっかり取り組んで
参りたいと考えます。

前岳から奥岳の世界自然遺産区域の調和がとれているこの屋久
島を荒らされることがないよう、価値ある環境を継続させ次世代
に引き継ぐため貢献できるよう取り組んで参りますのでよろしく
お願いいたします。

【転入】

○所長

奥村 克（九州森林管理局 総務企画部専門官（契約適正化担当）

【転出】

○九州森林管理局 経理課長

山部 裕一（所長）

業務計画

当保全センターでは、令和6年度の業務を以下のとおり計画しています。

1. 森林生態系保護

- (1) 職員と森林保護員(GSS)による世界自然遺産地域等のパトロール
- (2) 屋久島世界遺産地域科学委員会等への参画
- (3) 森林生態系モニタリング調査（植生垂直分布（西部地域）、湿原等）
- (4) 気象モニタリング調査（雨量、気温等）
- (5) ヤクシカ被害対策（植生保護柵の管理、有害鳥獣捕獲等）

2. 普及教育及び森林空間総合利用等

- (1) 森林環境教育、「屋久島森の塾」等の実施
- (2) 屋久島レクリエーションの森保護管理協議会等への助言・指導

3. その他

- (1) 関係機関等との連携・協力
- (2) 学術調査研究等に係る入林手続き
- (3) 広報紙「洋上アルプス」及び「年報」の発行

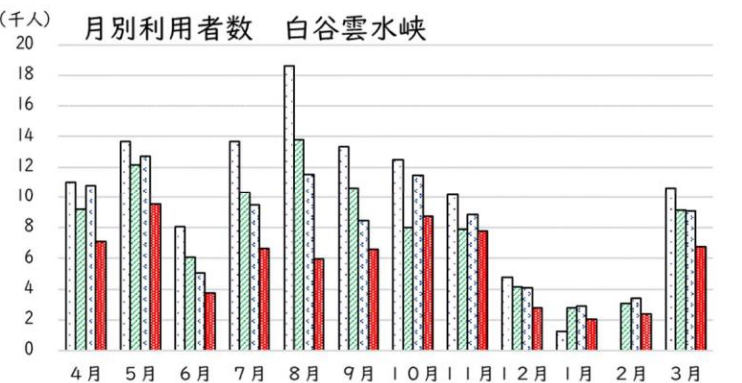
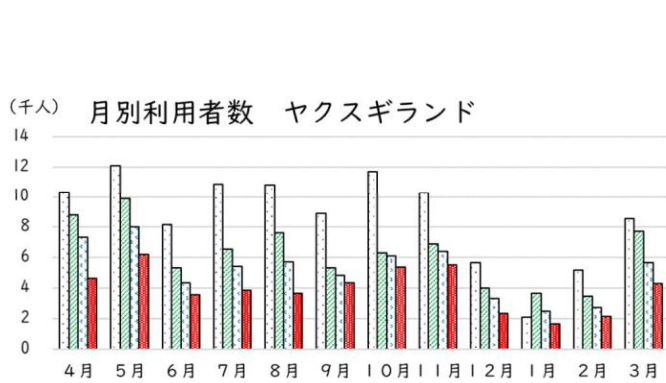
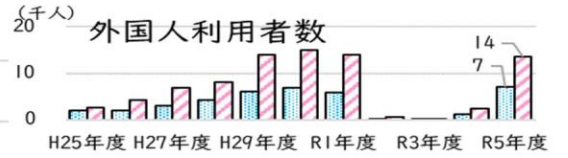
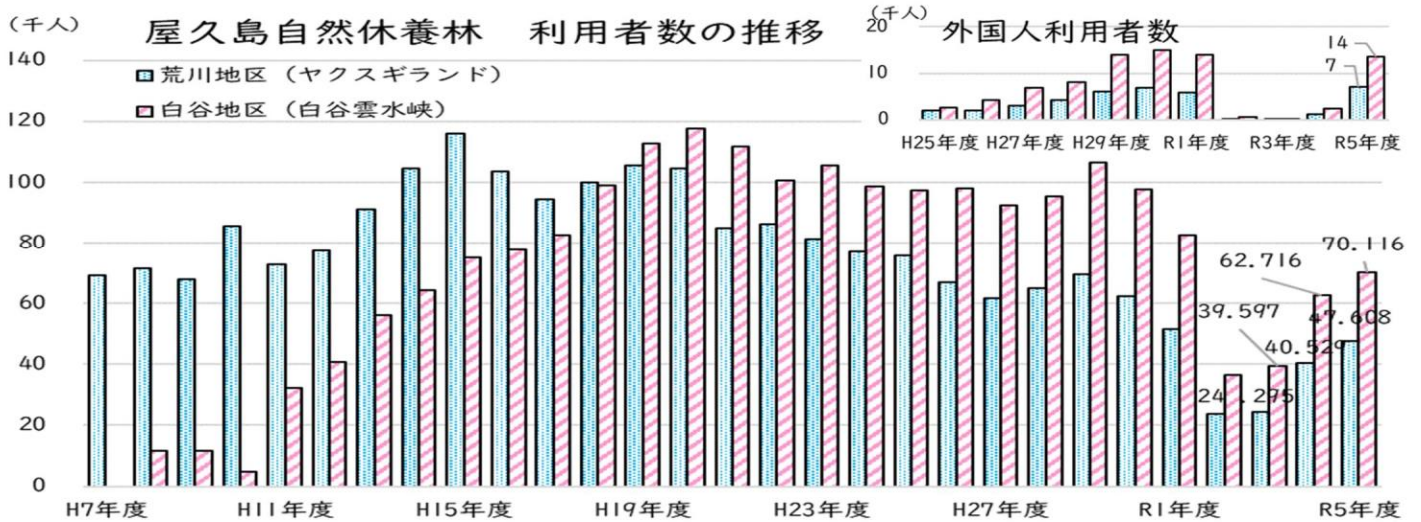
森林生態系保護地域の貴重な価値ある自然を将来にわたって維持していくため、グリーン・サポート・スタッフ（GSS）によるパトロールを実施します。2名体制で、宮之浦岳や愛子岳などの登山道において、軽微な歩道修理、植生や著名木等の状況把握、登山者への安全・マナー指導等を行いますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本年度より新たに伊藤重光（写真右）が一員となりました。



利用者 令和5年度実績

屋久島自然休養林の年度別利用者数及び令和5年度の月別利用者数の推移をグラフで表しました。令和5年度の利用者は117,724人で令和4年度より14,479人増加しました。外国人利用者は令和4年度より16,827人増加の20,540人となりました。 ※データ提供：屋久島レクリエーションの森保護管理協議会



今回紹介するのは「天文の森」固定試験地で
す。前回紹介した「小花山」固定試験地と同じ
く、1973年にヤクスギランド内に設定されまし
た。小花山から繋がる太忠岳登山道の途中、標高
1,200m付近に位置し、210分コースの終点にあ
ります。

試験地の入口に到着すると、「天文の森」と書
かれた看板やベンチが迎えてくれます。この看板
やベンチがある付近はなだらかな尾根になって
いて、スギやヤマグルマの中にモミやツガも混交
する林相を呈しています。そこから谷間へと下っ
ていくと、目の前に巨大な釈迦杉が現れます。釈
迦杉の胸高直径はこぶなどもあって正確に測定
することが難しいのですが、私が関わった調査
では270~280cmという記録が得られています。
ヤクスギ林内に設定された5箇所の固定試験地
の中で、最も太い幹となっています。

この場所の「天文の森」という名称は、天文
年間（1532~1555年）に伐採されたことに由来
するという説があります。しかしながら、福島大
学の木村勝彦先生らが20年ほど前にこの場所
で実施した樹木の年輪解析の結果から、直径30
~150cmのスギ・モミ・ヤマグルマのほとんど
が樹齢200~300年の範囲であることがわか
りました。西暦1700~1800年の間に更新し
た樹木が多いという結果になり、天文年間に
伐採されたという証拠は得られませんでした。

この天文の森試験地の樹木の測定は、1973
、1988、2001、2007、2012、2017、
2022年に実施されています。2001年までは
他の試験地と同様に比較的長い間隔をあけて
調査されていたのですが、その後にヤクスギ
林の試験地を代表する形で環境省生物多様性
センターが進める「モニタリングサイト1000」
事業の準コアサイトに登録され、2007年か
らは5年間隔で調査されるようになりました。
また、2002年には森林総合研究所の新山
馨氏らのグループがもともと1.0ha（100m
×100m）の天文の森試験地の二辺を伸ばす
形で面積を4.0ha（200m×200m）に
拡張し、調査に取り組んでいます。

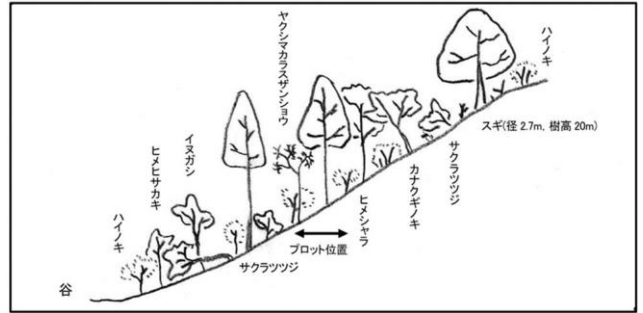


天文の森試験地の内部では、1988年の調査
や2001年の調査でヤマグルマやハリギリ、モ
ミのまとまった枯死（倒木）に由来する複数
のギャップの発生が捉えられています。その
後20年以上の時を経て、そのギャップ内
で更新したスギの成長も記録されており、
ヤクスギ林におけるギャップ動態の記録も
蓄積されています。天文の森試験地は、5
試験地の中で唯一5年間隔で調査を行う試
験地として、今後もヤクスギ林のモニタリ
ングの根幹を担っていくことになるでしょう。



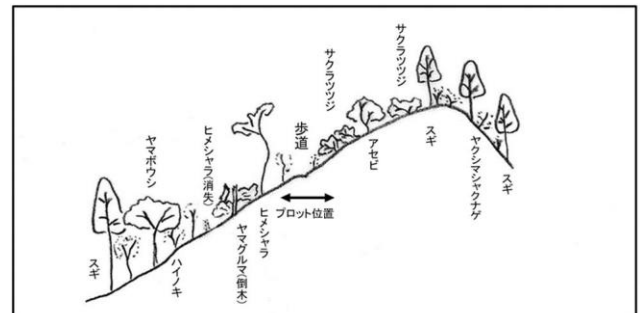
確認種数：71種(平成29年度：70種)

スギが優占し、ヒメシャラ等が混交する針広混交林である。5年の間に木道の付け替え工事があり、林内は一時的な攪乱が生じたが、階層構造については調査開始以来、ほとんど変化していない。攪乱箇所は主に草本層で、スギ実生の他、ハウロクイチゴ、サンカクヅル等のパイオニア種が見られるが、攪乱箇所以外はハイノキ、サクラツツジを中心としたシカ不嗜好植物で構成されている。亜高木層・低木層ともハイノキ・サクラツツジが優占し、ヤクシカの食害を強く受けた林相である。



確認種数：67種(平成29年度：65種)

スギが優占し、ヒメシャラ等が混交する針広混交林である。風衝により樹高が20mを超す個体は見られず、樹上にナナカマド、リョウブ等の生長した樹木が着生している個体が多い。平成30年と本年度の9月に台風の襲来を受ける等、攪乱により大径木の倒木が度々起きている。亜高木層以下は変化が大きく、亜高木層がサクラツツジ、低木層・草本層はいずれもハイノキが優占し、ヤクシカの食害を強く受けた林相である。



グリーンサポートスタッフ(GSS)巡視記録より ～花と景色～

ヤクシマアセビは3月8日、縄文杉までのパトロール中に見つけました。

名の由来はアセビ(馬酔木)でお分かりのようにこの木を食べた馬が苦しむ、または酔ったように見えるため。有毒植物であることからヤクシカの食害もなく、標高700m程度から山頂まで、よく見かけます。

花の時期は3～6月です。

